

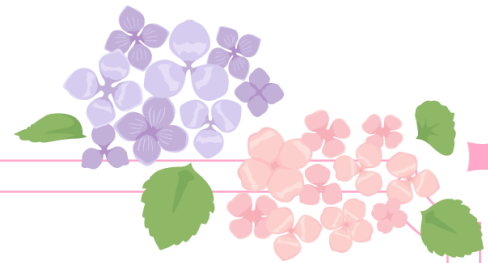
学サポ × 図書館

『読書人カレッジ』開催!

6月17日(土) 11時~12時30分

Zoom (URLは後日e-passでお知らせします)

※お申し込みは不要です



講師 小林エリカさん

(作家、マンガ家)

代表作

『親愛なるキティーたちへ』リトル・モア、2011年。

『光の子ども 1~3』リトル・モア、2013年、2016年、2019年。

『マダム・キュリーと朝食を』集英社、2014年。

(第27回三島由紀夫賞候補、第151回芥川龍之介賞候補。)

『トリニティ、トリニティ、トリニティ』集英社、2019年。

(第7回鉄犬ヘテロトピア文学賞受賞)

『最後の挨拶 His Last Bow』講談社、2021年。

(第44回日本シャーロック・ホームズ大賞奨励賞受賞)

「読書は大事」と言われるけれど、それなら「どんな本を読めばいいの?」「どうやったら上手に本を選ぶの?」といった疑問は、誰もがもっていることと思います。

そこで今回、学サポ×図書館の企画として、日本有数の書評紙『週刊読書人』が手がける「読書人カレッジ」(日本財団との共催)を本学でも開催することにしました。「本を読むこと」「文章を書くこと」「表現をすること」について深い経験のある講師の方をお招きして、本学の皆さんの素朴な疑問に答えていただき、アドバイスをしてもらいます。この機会に、「本を読むこと」の本来の意味と楽しさに、あらためて目を向けてみませんか。



「読書人カレッジ」で「本を読むこと」「文章を書くこと」、
そして「表現をすること」の楽しさ、奥深さを再発見！



本は小さな「どこでもドア」です。新たな本を開くたびに、新たな世界が開かれます。すぐれた小説がそうであるように、その世界をわたしたちは——いま・ここにいながらも、ひとときの間——「生きる」ことができます。そうしてわたしたちは、ひとの心や想いについて、過去や異郷の出来事と暮らしについて、身のまわりで起きていることやこれから起きるかもしれないことについて、深く知ることができるようになります。

もっとも、それはたんに知識が増えるということではありません。なぜなら本を読み終える——「どこでもドア」の向こうから帰ってくる——ごとに、わたしたちは人間を、世界を、新たな目で見ることができるようになっているからであり、またそれゆえに、一人ひとりが新たな「わたし」に——そうとは気づかないうちに——変わってもいるからです。

その意味で、読書とは本来、愉悦に満ちた経験のはずなのです。また「大学での学び」にも読書は欠かせません。しかしその理由は、課題やレポートのために必要だから、というだけではありません。「大学での学び」の目的が、知識だけではなく、すぐれた知性と豊かな感性も身につけることにあるから——言い換えれば、「思考する力」と「他者を想う力」を養い、そうして「自分の人生を自分で切り拓いていく力」を身につけることにあるから——なのです。

学サポ×図書館の企画『読書人カレッジ』は、皆さんがそうした知性と感性、力を身につけていくための手がかりを提供します。この機会に「本を読むこと」の、そして「文章を書くこと」「表現をすること」の本来の意味と楽しさに、あらためて目を向けてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

学サポ×図書館 スタッフ一同



お問合せ：東洋英和女学院大学 学習サポートセンター (gakusapo@toyoeiwa.ac.jp)